平成26年1月9日
読売新聞 夕刊

からだ

医療のページ

非アルコール性脂肪性肝炎
重症度示す組織変化発見

飲酒量が多くない人に起こる非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）の重症度を示す組織の変化を見つけたと、東京医科歯科大などの研究チームが米科学誌プロスワンに発表した。

チームでは、傷ついた肝細胞の周囲を、白血球の一種のマクロファージという細胞が囲むhCLSという構造に注目、マウスと人間の患者から摘出した肝臓を調べた。その結果、hCLSの個数が多いほど、組織が硬くなる線維化の程度が強く、症状が進んでいた。

NASHの患者は国内で約100万人と推定される。原因はわからず、有効な治療法もない。肥満の人に多く、まずは、食事の改善や運動などの生活指導を行う。

小川佳宏・同大糖尿病・内分泌・代謝内科教授は、「hCLSは発症の仕組みを解明する重要な手がかりで、線維化に関与している可能性が高い。さらに研究を進め、治療薬の開発につなげたい」と話している。